

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601008	事業の開始年月日	平成28年11月1日
		指定年月日	平成28年11月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア東林グループホーム		
所在地	(252-0312)		
	神奈川県相模原市南区相南1-7-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄小田急江ノ島線東林間駅より徒歩7分の閑静住宅地に立地。近隣には緑の楽しめる水道道路や東林間神社があります。「暮らしの場」としておだやかに明るく過ごせる時間・空間をめざしています。経験のないスタッフもおりますが、日々のチームプレーや教育研修を通じて、ご利用者に寄り合い、支えることのできる「よく見て、考えて、動ける」職員集団を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年11月14日	評価機関 評価決定日	平成31年1月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線「東林間」駅より、徒歩約7分ほどの閑静な住宅地の中にあり、周囲にも馴染んだ真新しい2階建て2ユニットのグループホームです。
<優れている点>
開設してまる2年、施設長を中心に、入居者が主体となった、その人らしい毎日が過ごせるよう、どのように支援すべきかを職員自ら考え行動できるよう日々研修や助言、話し合いの場を持っています。職員の自主性を尊重すると共に、中心的人材づくり、チームワークづくりなど育成にも取り組んでいます。また、運営面でも事業所目標の作成、地域との行事、災害時での関係づくりなど、地域との積極的な関わりを強めていく方向で進めています。
です。
<工夫点>
事業所の「毎月のたより」を工夫し、利用者のイベント時の写真掲載を主体に編集しています。利用者の誕生日の笑顔を毎月掲載し、その月のイベントを楽しんでいる利用者の写真を入れ、見て楽しい月報になっています。家族は自分の親、兄弟などが楽しく暮らしている様子を写真で見て、理解することができます。事業所は1階に機械浴、2階に個浴があり、機械浴が必要な利用者も快適に入浴することができます。設備面での工夫が、職員、利用者への配慮となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。さらに施設自体の運営理念の確立が必要。	事業所理念の確立のため、「あなたらしい毎日を過ごせるよう支援する」という施設年度目標を作成しています。事業計画表の巻頭にも掲げ、職員へ伝達しています。	事業所独自理念を確立し、法人理念と共に職員同士で共有していくことも期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼や近隣住民に参加頂ける施設イベントを計画・準備中。	開設2年を経過しています。近隣への開設挨拶まわりを行い、町内会の祭りの見学、行事への参加を行っています。今後、地域との交流をより積極的に行う意向で企画を検討しています。	今年初めて開催した施設内納涼祭の地域への参加呼びかけをしています。今後、災害時には近隣・地域からの支援を得るためにも、避難訓練実施の知らせ配布や、地域との交流も期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、トピックな題材を提供し、行政サポートを受けるためのアドバイス等をしている。行政の介護駆け込み寺的ネットワーク拠点に加入予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会や民生委員のご参加をいただけるようになり、地域イベントへの参加や防災時の協力等、情報や意見の交換ができるようになった。	30年度12月までに3回開催しています。町内会々長、民生委員の他、家族、利用者が参加しています。第3回の会議には利用者4人が出席しています。運営の概況を説明し、出席者から情報をもらい、意見交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンスリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。	市の担当者の運営推進会議への出席はありませんが、必要な書類提出の際に市担当者と接し、良好な関係です。また、生活保護利用者の状況確認に市のケースワーカーが定期的に来所しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用による。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。	施設内研修を毎月行い、そのテーマの一つとして「身体拘束・虐待防止」を取り上げ、実施の徹底を図っています。その他、県による自己点検シートの提出を励行しています。玄関の施錠はしていますが、利用者が外出を希望する際は開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政発パンフ等を施設にでも配布、ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。	利用者および家族の運営推進会議への参加時の他、日常生活上で利用者の意見を聞いています。また、施設長が電話で家族から意見を聞くこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。	毎朝の会議の他、月1回のフロア会議が意見交換の場となっています。毎月の全体研修においても研修内容の実施に関わる運営上の意見交換が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の回想ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用、研修先情報を広報している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベント、市内の業態管理者連絡会や行政主導研修会に人員を参加させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「利用者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後ご家族は大事な介護者であることをお話し上げている。日々の様々な様子を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。	利用者が馴染みの場所に行きたい、馴染みの人に会いたい、という場合に支援しています。利用者である父親の状況を娘へ電話連絡したところ、孫を連れて来所し、断絶状態にあった母娘の再会を果たしたという事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。	食べ物、トイレ、入浴など生活上の思いや意向は担当職員が声かけなどにより聞き出し、記録しています。思いが実行できるよう会議で報告し、検討を行い介護計画にフィードバックしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。	介護計画の長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月、利用者の状態変化時にサービス内容を評価、見直しをしています。担当者会議を開催し、家族や作成者、管理者、介護員で課題とケアの適正を検討しています。介護記録やサービス計画の研修を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存せざるを得ないのが現状。運営法人には介護の多様な業態あり、情報や資産の共有活用に取り組みたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア活用がまだ質量とも限定的である。行政ボランティア受入協力機関登録完了、体制づくりはできたので活性化したい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。	家族の同意で1名はかかりつけ医を継続、他の人は訪問医が月2回、健康管理を行っています。眼科、皮膚科、耳鼻科、婦人科など必要に応じて施設長が付き添い、受診しています。24時間オンコール体制で、緊急往診や受診、救急搬送に対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。	経口摂取が困難になった場合、事業所で出来る医療・介護を医師、家族、施設長、看護師、介護支援専門員を交えて説明し話し合っています。家族の看取り希望時は、職員の研修を行い、チームで支援に取り組む姿勢です。開設2年で看取りの事例はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する相互互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請予定。	年2回避難訓練があり、そのうち1回は夜間避難訓練です。第3回運営推進会議において、町内会々長と災害時対応の協力関係について施設長と意見交換を行っています。	災害（火災、震災、水害、風害）時での地域との協力関係の強化のための方策・計画づくりと非常時備蓄品、備蓄日数の見直しも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の送りや指導、教育研修等を通じ、画的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。	サービス向上・認知症ケアなどの研修を行い、個々の理解と尊重の支援に繋がっています。一つのルールではなく、個々の経歴や人格に向き合い、また日々の場面の中で、親しさと尊重をきちんと使い分け、プライバシーに配慮して支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるような声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。	食材は業者から配達され、切り方、味付けを工夫し調理しています。法人の畑で採れた野菜・果物も入居者へ提供しています。食事前の口腔体操や歌、メニュー発表で食事の意識づけを図っています。入居者は食後の片づけをしています。好みのおやつなども購入しています。	決められた食材・献立・食費の中で、主食の変更、入居者の希望メニューの提供、寿司、ラーメン、カレーなど利用者が慣れ親しんだメニュー導入の可能性の検討も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックが不十分に思われる。訪問診療歯科の恒常のご利用がないので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。	排泄パターンを把握し、日中は個々の時間に合わせ、こまめにトイレ誘導しています。夜間はポータブルトイレの使用です。オムツからパッド、オムツ外しと自立排泄を支援し、現在10名が布パンツで過ごしています。トイレ内は安全な自立排泄環境となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。	個浴と機械浴と2タイプの浴室を用意し、状態や希望で選択できます。ゆず湯、菖蒲湯など季節と香りを楽しんでいます。湯温や長湯、利用時間も希望に応じています。女性は同性介助やドアの外で見守るなど配慮し、リラックスした入浴を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせて対応。布団干しや空気入替えを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせて対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案にはまだ至っていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。地域祭礼や法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会や旅行に参加。	近隣の遊歩道を散歩したり、買い物にコンビニエンスストアに出かけています。法人の車で季節の桜や紅葉見物、水族館、芋掘り・イチゴ摘みなど遠出もしています。また地域のサマーカーニバルや法人の運動会、家族と踊りの発表会など協力し、外出の支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。	広い玄関と中廊下を持ち、居間・食堂、キッチン、トイレ、浴室などの共有区間が一体となってまとめられ、過ごしやすくなっています。浴室は1階に機械浴があります。廊下壁にはイベントでの利用者の写真などを飾っています。周辺は住宅地のため、騒音もなく静かな環境です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。	クローゼット付き8～9㎡居室で、フローリング床、段差のない引き戸の入口です。利用者は自分の使い慣れたタンスや机などを持ち込み愛用しています。なかには布団や炬燵を持ち込んでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。さらに施設自体の運営理念の確立が必要。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼や近隣住民に参加頂ける施設イベントを計画・準備中。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、トピックな題材を提供し、行政サポートを受けるためのアドバイス等をしている。行政の介護駆け込み寺的ネットワーク拠点に加入予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会や民生委員のご参加をいただけるようになり、地域イベントへの参加や防災時の協力等、情報や意見の交換ができるようになった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンズリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用による。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政発パンフ等を施設にでも配布、ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の回想ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用、研修先情報を広報している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベント、市内の業態管理者連絡会や行政主導研修会に人員を参加させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するように努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「利用者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存せざるを得ないのが現状。運営法人には介護の多様な業態あり、情報や資産の共有活用に取り組みたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア活用がまだ質量とも限定的である。行政ボランティア受入協力機関登録完了、体制づくりはできたので活性化したい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する相互互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請予定。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申送りや指導、教育研修等を通じ、画一的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるよいな声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックが不十分に思われる。訪問診療歯科の恒常のご利用がないので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせて対応。布団干しや空気入れを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせて対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案にはまだ至っていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。地域祭礼や法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会や旅行に参加。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名 アクア東林グループホーム

作成日： 平成31年1月31日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の運営理念が確立されていない	事業所の運営理念を確立し、職員が共有する	職員アンケート、検討会実施。 新年度(4月)施設年度目標と共に公布。 各種会議の機会等にて都度確認。	6ヶ月
2	2	地域連携を強化すべきである	地域連携の機会を創設し、情報発信を強化する	8月納涼祭への地域来訪、参加を想定した企画実施。 ボランティア募集告知協力依頼。 地域からの参加を想定した防災訓練の企画実施。	8ヶ月
3	13	災害時対策を強化すべきである	風水害、大規模地震に対する防災・対策計画を立案実施する	運営法人に対し対策計画策定、災害対策品備蓄手順明確化、迅速化要望中。	6ヶ月
4	40	食生活の多彩化を図るのが望ましい	食事の多彩化、行事食・企画おやつの実施を 図る 行事食ボランティア等を活用する	行事食、企画おやつ等の予算化、経費ガイドライン、実施手順の策定、公布。 必要に応じてボランティア協力要請。 朝食パン機会の創設。	3ヶ月
5					ヶ月